

里地里山の保全・活用の取組における課題と技術的方策等

分類	多様な主体の連携・協働／環境教育
手法名	学校と地域が連携して取り組む子どもたちの生き物ふれあい活動
主体	鮫川村立鮫川小学校探検クラブ
背景(地域の課題)	<p>里地里山の小学校は生きもの豊かな自然環境に恵まれている一方で、川やため池など水辺を中心に、近年なかなか子どもたちだけでは近寄れない空間となっている。地域の子もたちでさえ里地里山の生き物を見て触れた経験がないという声も聞かれる。里地里山への意識を育んでいくためにも学校と地域が協働しながらふるさとにおける生き物ふれあい活動を促進させていくことが望まれる。</p>
手法／方策の詳細	<p>(1)探検クラブの活動 鮫川小学校探検クラブではふるさとの自然や文化への理解を深めるため下記の活動に取り組んでいる。 ①地域の伝承・伝説の場の訪問(写真1) ②源流探検と生き物観察(写真2) ③河川の水質調査や生き物の観察(写真3)</p> <p>(2)地元住民のサポート ふるさと学習活動では、地域の住民がゲストティーチャーとして子どもたちの学びに積極的に関与している。オオムラサキの幼虫を提供するエピソードにも見られるように、身近な地域の資源を用いて子どもたちの興味関心を喚起し、学びに活かすような配慮も見られる(写真4)。</p> <p>(3)学校と地域の連携による子どもたちの活動サポート 学校の教員だけでは十分に行うことが難しいふるさと学習活動を、地域の住民と共に行うべく意識向上を図ると共に、情報共有や発信活動を行いながら取り組みを進めている。</p>
手法・技術的視点	<p>子どもたちが里地里山で生き物ふれあい活動を行っていくために学校及び地域の大人のサポートが必要不可欠になっている現状がある。 本事例では学校が里地里山でのふるさと学習と生き物ふれあい活動の重要性について意識を共有しながら、地元住民の協力の下で情報交換を行いつつ機会を設け、着実に子どもたちの体験を豊かにしていることが着目されると言える。</p>

<p>実行プロセス・運営体制のイメージ</p>	<p>学校と住民の連携による里地里山のふるさと学習及び生き物ふれあい活動の充実化</p>
<p>図・写真資料</p>	<p>写真1: 地域の伝承の地訪問 魔物を封じた 姥神神社</p> <p>写真2: 地元案内人と共に源流探検 鮫川を調べよう! 源流は?</p> <p>写真3: 川の生き物調査 こんな魚がすんでいたよ</p> <p>写真4: 地元から提供された生き物の観察 オオムラサキの幼虫がやってきた</p>
<p>参考資料</p>	<p>平成24年度里なび研修会in福島県パワーポイント資料(鮫川村立鮫川小学校探検クラブ)</p>